

財 団 名 公益財団法人 JAC環境動物保護財団
 (英名: JAC Environmental & Animal Protection Foundation)

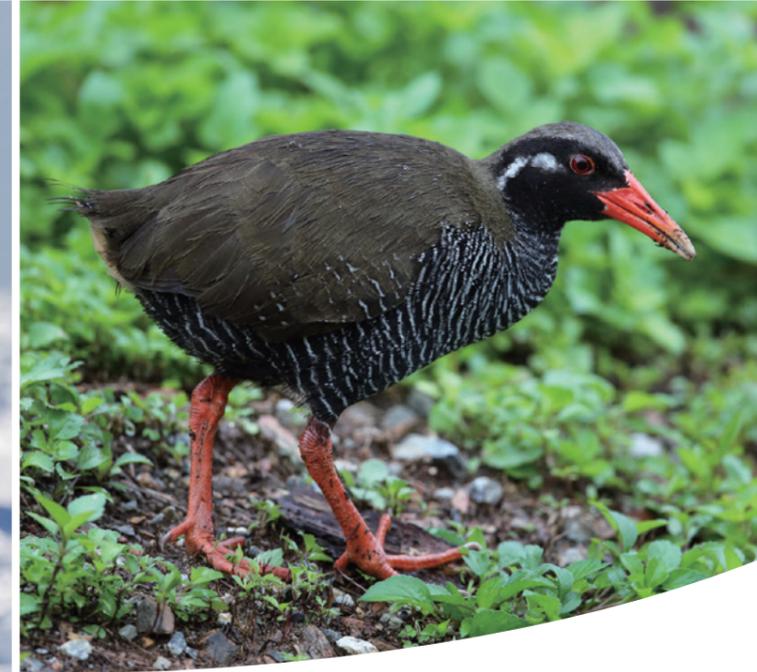
所 在 地 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105番地 神保町三井ビルディング14階

設 立 2022年3月1日

事 業 1. 動物や自然環境の保護活動を行う団体への助成
 2. 動物や自然環境の保護を促進するための啓蒙活動

お問合せ先 TEL: 03-5217-6333
 MAIL: info@jac-foundation.org

ウェブサイト <https://jac-foundation.org>



公益財団法人
JAC環境動物保護財団
 JAC Environmental & Animal
 Protection Foundation

さまざまな活動を通じて、日本におけるすべての動物に対する動物福祉の向上を実現し、日本の自然環境保護・動物保護を根本から変えていきます。

Our Mission

財団の使命

JAC環境動物保護財団は、動物保護と動物福祉、それに伴う自然環境保護を行う団体への助成を通じて、人と動物の持続可能な共存と自然環境の実現に寄与することを目的としています。また、その啓蒙活動を推進することにより、日本国内のすべての動物と自然環境保護への意識の向上を図り、世界を牽引するリーダーを目指します。

財団設立の背景と経緯と目的

当財団の理事長・田崎ひろみ（JAC Recruitment代表取締役会長兼社長）は、1974年に渡英以来、英国の動物保護団体の実態や、国民の動物愛護に対するボランティア精神が根付いている文化に感銘を受けました。以降、田崎は日本における自然保護を先進国並みにすることを自らのミッションとし、日本での動物・自然保護財団の設立を真剣に考え始めました。

長年にわたり財団の構想を描き、資金となる個人収益を確保するために自身で創業した事業の拡大に専念し、2022年3月、一般財団法人「JAC環境動物保護財団」を設立、2023年2月より公益財団法人化いたしました。「経済の発展による富は地球に還る」ことを信念に、私財を日本の動物および環境保護に充て、さまざまな活動を通じて日本における自然保護・動物保護と動物福祉、環境保護を根本から変えていきたいという強い想いで取り組んでいます。

Background & Purpose of Establishment



©Kojo Tanaka

Founder & President

理事長 田崎ひろみ

1974年に渡英、日系金融機関在籍後、1981年にJAC Group（前 TAZAKIグループ）の新事業となる人材紹介事業の立ち上げ要員として入社。その後、グループの社長として各事業を成長に導く。英国での人材紹介事業を軌道に乗せた後、1987年に初の海外拠点となるシンガポールに進出。1988年に日本、その後東南アジア、アジア諸国、ヨーロッパ、アメリカにも事業を拡大。2006年にJASDAQ上場、現在は東証プライム市場上場企業として、長年にわたりグループの成長を牽引。現在JAC Recruitment（JAC Group）代表取締役会長兼社長。2022年に当財団設立。



JAC Group概要

JAC Groupは、世界11ヵ国・34拠点で事業を展開する業界最大規模の人材紹介会社です。また、東南アジアにおける日系人材紹介会社としても最大規模を誇り、現地に進出する日系企業や外資系企業に優秀な人材を紹介することで、その成長に貢献しています。現在2,240名の社員と、1,631名のプロフェッショナルコンサルタントが在籍しています。※2024年8月現在
<https://www.jacgroup.com>



JAC 環境動物保護財団の助成先



家庭動物・伴侶動物(犬・猫など)

飼育下におかれるすべての家庭動物を対象として、動物福祉の向上のために必要な活動を支援します。野良猫問題を解決するためのTNRや、飼い主のいない動物の保護と譲渡の促進、シェルターを所有する場合は施設内の衛生環境や、動物の健康状態を維持するための支援など。また、地域や行政と協力して行う啓発活動なども含まれます。

助成先例

- ・行き場のないペットの保護シェルター運営、譲渡や啓発活動
- ・競走馬や繁殖活動を引退した馬の保護、およびQOLに基づいた終生飼育支援



野生動物

日本固有の希少野生動物、絶滅危惧種の保全活動を支援しています。人間による社会活動が原因で絶滅の危機に瀕している動物は、日本全国に存在します。こうした野生動物の保全と、生態に適した自然環境の維持、啓発活動などが含まれます。また、保全を目的とした科学的な調査・研究活動も対象としています。

助成先例

- ・ヤンバルクイナ保全のための生態研究と啓発
- ・世界遺産登録で高まる交通事故リスクから、イリオモテヤマネコを守る活動



動物園・水族館

動物園や水族館の役割は「種の保存」「調査・研究」「教育」の3つであると考えます。また、飼育環境は動物が本来生活する環境に近く、動物福祉を基盤としたものであるべきという観点から、動物の飼育環境の改善のための支援を重要視しています。ほか、動物園や水族館で取り組む希少野生動物の域外保全や、教育活動も対象となります。

助成先例

- ・アフリカゾウの動物福祉向上のための環境エンリッチメント
- ・絶滅危惧種ミソゴイの野生復帰訓練と、放鳥技術の確立



産業動物(養鶏・豚・牛など)

現在の日本における家畜・産業動物への動物福祉レベルは低く、具体的な活動はこれからといえます。例えば、欧米諸国ではケージフリーの卵のほうが売れますが、日本では安い卵の需要が高く、消費者への啓蒙・教育も大きな課題です。当財団では、産業動物の動物福祉の向上に積極的に取り組む活動を支援することで、持続可能な畜産の実現を目指しています。

助成先例

- ・動物福祉に配慮した、平飼い養鶏農家の鶏舎の補修工事
- ・放牧豚の快適な木陰と水飲み場の設置

活動内容



1. 活動団体への助成

「希少な野生動物の保全」や「動物福祉の向上」などを目的とした、活動団体への支援を行っています。

助成対象となる活動分野

- | | | |
|---------------------|-------------------|------------|
| 1. 希少野生動物の保全 | 3. 動物園・水族館の動物福祉向上 | 5. 自然環境の保護 |
| 2. 伴侶動物・家庭動物の動物福祉向上 | 4. 家畜・産業動物の動物福祉向上 | |

活動指針・選考方針

当財団のウェブサイトにて、活動分野ごとの活動指針・選考方針を掲載しています。助成を申請される際は、必ずご確認ください。

応募条件

- ・日本国内での活動であること
- ・活動実施状況および財政状況について、適正な報告をして頂けること
- ・行政および地域と協力し支持を得ている、またはそのための努力をしていること

※1団体当たり、1申請のみ

▶ 以下のような申請は、助成対象外となります

論文の執筆や投稿、学会発表のみを目的とする活動／イベントやセミナー、シンポジウムの開催のみを目的とする場合／科学的な研究等で、動物実験を含む場合／動物福祉や環境への配慮をしていない場合／財務諸表などの収支状況を示す書類が提出されていない場合／法人や団体名義の銀行口座がない場合(個人口座へのお振込みはできません)／個人で行なっている活動(団体等と一緒に活動している場合は、例外として助成対象とすることがあります)／助成対象の判断が難しい場合はご相談ください

助成金額について

- ・1件あたりの申請金額の上限は500万円※です。ただし、より多くの活動支援ができるよう、助成金額は1件あたり50万～200万円が最も多い水準となっています。申請内容によっては、この範囲を超えて助成する可能性が十分にあります。
- ・助成希望額から減額して採択することがあります。その場合、助成金の用途を当財団より指定させていただきます。
- ・他団体からの助成金受給状況などを含め、申請内容に虚偽や重大な記載漏れが判明した場合、助成金の支給取消、返還請求を行う場合があります。

※上限金額は変更する可能性があります

応募方法

当財団のウェブサイトをご覧ください。

選考方法

専門家による選考委員会にて選考したのち、理事会の決議を経て助成先を決定いたします。

選考で特に重視するポイントは以下のとおりです。

- ・活動の目的
- ・活動の緊急性
- ・期待される成果とその検証方法
- ・助成金の使用目的と内訳、予算の透明性
- ・当財団の目的・主旨と合っているか

2. 寄附講座への助成

●日本獣医生命科学大学

『JAC環境動物保護財団ワンウェルフェア寄附講座』への助成

本寄附講座は、「動物福祉、人のWell-being、生物多様性、環境保全、持続可能な社会はすべて一体である」というワンウェルフェアの概念のもと、動物福祉向上のための活動と教育、人材育成を行います。ワンウェルフェアの概念を理解し、知見と実務経験を有する専門人材を社会に数多く輩出していくことで、日本の動物福祉向上を実現することを目的としています。



【2024.6.15】『ワンウェルフェア寄附講座』開講シンポジウムの開催

3. 視察・啓蒙活動

助成先の活動の現場を視察し、その活動状況や成果をウェブサイトをはじめとした、さまざまな媒体で発信。自然環境・動物保護に対する理解と促進につなげています。また、多くの団体や研究機関等とのネットワークを活かし、活動の優良事例や課題解決の方法を共有することで、活動のサポートも行っています。



2023.5.2

NPO法人『どうぶつたちの病院 沖縄』
ヤンバルクイナの保全活動の現場を視察



2023.10.31

公益財団法人『横浜市緑の協会』
金沢動物園を訪問



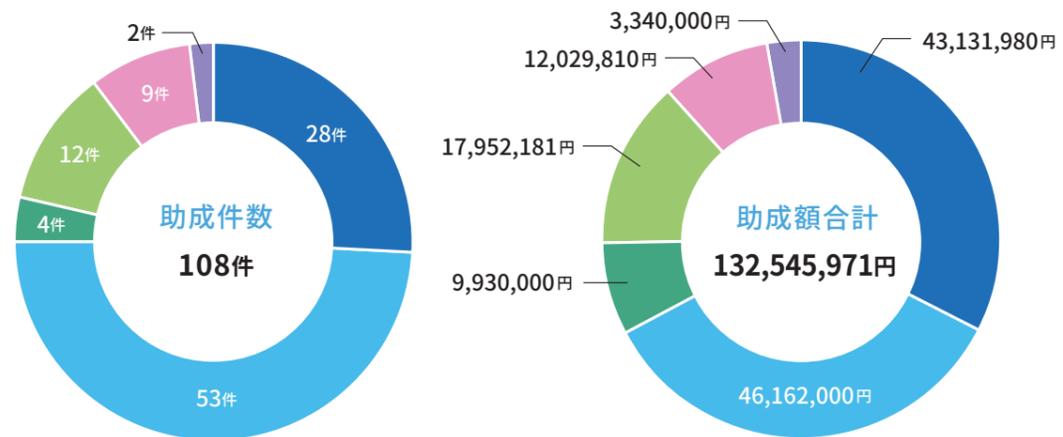
2024.3.7

NPO法人『DOG DUCA』
犬の保護活動の現場を視察

2024年度 助成実績

JAC 環境動物保護財団では毎年、日本全国の希少な野生動物の保全と、動物福祉の向上を目的とした活動への助成を実施しています。

2024年度は108団体に対し、総額1億3,254万5,971円の助成をいたしました。また、寄附講座の助成に年間1,500万円、能登半島地震の被災地での動物保護活動へ100万円の寄附を行いました。



■ 希少な野生動物の保全 ■ 伴侶動物・家庭動物の動物福祉向上 ■ 動物園・水族館の動物福祉向上
■ 家畜・産業動物の動物福祉向上 ■ 馬の動物福祉向上 ■ 自然環境の保護

Grantee Case Study



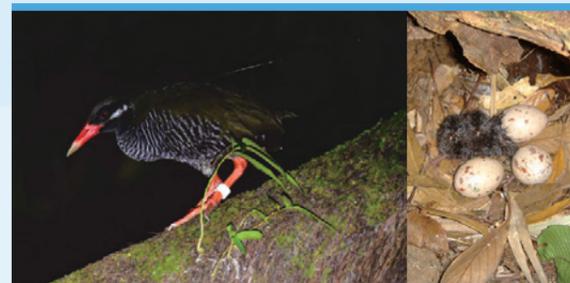
沖縄県・西表島

認定NPO法人トラ・ゾウ保護基金
西表島支部やまねこパトロール

助成金額

3,910,000円

助成活動内容 絶滅危惧種に指定されているイリオモテヤマネコの交通事故を防止するための夜間パトロールや、島内の小学校での授業などを通じて、ヤマネコ保全の普及啓発活動を行っています。助成金は、夜間パトロールに使用する車両の購入に活用いただきました。



沖縄県・国頭郡全域、名護市

公益財団法人
山階鳥類研究所

助成金額

2,000,000円

助成活動内容 国内最大の鳥類専門の研究機関で、近年は特に絶滅危惧種のアホウドリやヤンバルクイナなど、希少種の保護に役立つ研究を行っています。当財団では、ヤンバルクイナ保全のための生態研究や、飼育下繁殖後に放鳥した個体の追跡調査などをご支援しています。



沖縄県・沖縄市／八重瀬町ほか

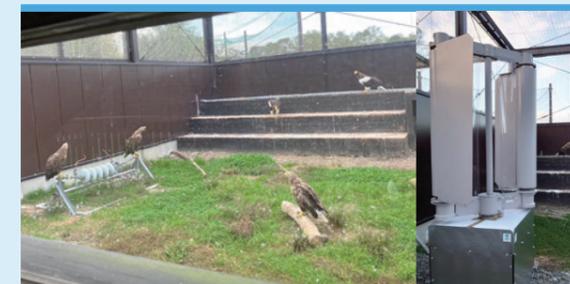
一般社団法人
動物愛護の会アベニール

助成金額

1,000,000円

助成活動内容 八重瀬町内を中心に、飼い主のいない猫の保護・譲渡活動、TNR活動、地域猫の見守り、啓発活動を行っています。助成金によって保護猫シェルター内に新たな仕切りを作る改修工事を行い、相性の悪い猫同士や、病気の猫が落ちていて過ごせるエリアを設置しました。

助成先の事例紹介



北海道・釧路市

猛禽類医学研究所

助成金額

4,000,000円

助成活動内容 希少猛禽類の救護や死因究明、野生復帰できない個体を活用して問題解決のための、さまざまな技術や機材の開発に取り組んでいます。助成金は、プロペラ式風力発電機によるオオワシ・オジロワシのバードストライク防止を目的とした、垂直軸型マグナス式風力発電機への反応試験に充てられています。



広島県・福山市

芦田川水系スイゲンゼニタナゴ
保全地域協議会

助成金額

1,000,000円

助成活動内容 芦田川水系の希少な淡水魚・スイゲンゼニタナゴ個体群が安定的に生息する状態の実現に向けて、保護増殖、生息環境の維持管理と改善、普及啓発活動を行っています。助成金を活用し、スイゲンゼニタナゴの知名度とその希少性に関する意識向上、および保全のための啓発動画を制作しました。



長野県・高山村

高山村の平飼い卵
むらたま

助成金額

569,191円

助成活動内容 動物福祉に配慮した平飼い養鶏「むらたま」では、鶏の飼育環境、餌の内容や自然環境に配慮し、のびのびと暮らす鶏たちが産んだ卵を提供しています。当財団では「むらたま」拡大プロジェクトとして、鶏舎の補修工事や啓発パンフレットの制作などを支援しました。